

令和 3 年度 長岡市立図書館の活動評価

令和 4 年 7 月 26 日

長岡市立中央図書館

令和3年度 長岡市立図書館の活動評価について

1 評価の趣旨

図書館法第7条の3の規定に基づき、令和2年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

2 評価の項目

(1) 基本評価（数値目標に対する達成率評価）

数値目標に対する達成率によって評価を行う。

① 利用状況

個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、実登録者数、インターネットアクセス件数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数、新規購入冊数の割合

（中央図書館入館者数、登録率、中央図書館開館日数、特別資料の転載等許可件数は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

(2) 重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番5と6は内部評価のみとする。

令和3年度重点事項

- 1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
- 2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
- 3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。
- 4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。
- 5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
- 6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

3 評価の方法

(1) 図書館の内部評価

- ・項目ごとに数値目標と比較するなどして算定し、評価する。
- ・「基本評価」、「重点事項評価」とともに、AAからCまでの4段階の評価とする。

区 分	評価区分・内容
基本評価	AA … 数値目標を大きく上回った。(＋10%超) A … 数値目標を達成・上回った。(0～＋10%) B … 数値目標を下回った。(0未満～－10%) C … 数値目標を大きく下回った。(－10%超)
重点事項評価	AA … 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 A … 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている B … 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 C … 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

(2) 図書館協議会による評価

○ 協議会の開催

- ・日 時 令和4年2月28日(月曜日)
- ・会 場 長岡市立中央図書館美術センター

○ 協議会の意見のとりまとめ

- ・上記協議会における各委員の意見を委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

4 評価の概要

基本評価は、評価対象の9項目中、AA、A評価は前年度と同じく3項目であるが、B評価は6項目であり、前年度の4項目を上回る結果となった。また、前年度2項目あったC評価が無くなった。

重点事項評価は、事業別評価の19項目では、A評価が17項目、Bが2項目となった。また、総括評価では、A評価が5項目、B評価が1項目であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっているといえる。

5 図書館協議会意見

(1)「基本評価」について

- ・図書館ホームページのアクセス数が急増した理由について、セキュリティの面からも精査してほしい。

(2)「重点事項評価」について

- 1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
 - ・内部評価のとおりとする。
- 2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
 - ・ビジネス支援コーナーの利用を増やすためには、他の機関との連携が大事になってくる。
- 3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。
 - ・内部評価のとおりとする。
- 4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。
 - ・内部評価のとおりとする。
- 5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
 - ・内部評価のとおりとする。
- 6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。
 - ・内部評価のとおりとする。

【目次】

I 基本評価について

1 利用状況	6
2 管理運営費	7

II 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について	8
(2) 重点事業の総括評価について	10
(3) 個別事業の実施結果について	11
① 貴重資料の活用、反町茂雄文庫展	11
② 郷土資料の充実	12
③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用	13
④ 歴史公文書の収集・保存	15
⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用	16

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	17
(2) 重点事業の総括評価について	17
(3) 個別事業の実施結果について	18
① 図書館蔵書の充実	18
② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実	19
③ 図書館の環境整備	20

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	21
(2) 重点事業の総括評価について	22
(3) 個別事業の実施結果について	23
① 広報について	23
② 各種機関と連携した事業の実施	24
③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施	25

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	27
(2) 重点事業の総括評価について	28
(3) 個別事業の実施結果について	29
① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施	29
② 子ども向け図書館サービスの充実	30
③ 学校等への図書館サービスの実施	32

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について	33
(2) 重点事業の総括評価について	33
(3) 個別事業の実施結果について	34
① 利用者アンケートの実施	34
② 友の会事業	35
③ ご意見ポスの設置	36

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	37
(2) 重点事業の総括評価について	37
(3) 個別事業の実施結果について	38
① 外部研修・遠隔研修	38
② 職場内研修	39

I 基本評価について

1 利用状況

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度		達成率 (%)	評価
			達成目標値	年度末実績		
入館者数（中央図書館・人）	312,564	238,603	—	255,216		参考 数値
個人貸出冊数(冊)	1,651,636	1,536,865	1,610,000	1,598,746	99	B
予約件数（件）	208,806	240,407	244,850	254,240	104	A
有効登録者数(人)	45,258	41,574	41,600	38,101	92	B
登録率（%）	16.86	15.68	—	14.52		参考 数値
実登録者数（人）	34,223	28,491	28,500	28,067	98	B
登録率（%）	12.75	10.74	—	10.70		参考 数値
インターネット アクセス件数(件)	274,419	273,056	273,000	433,607	159	AA
中央図書館開館 日数	297	292	—	289		参考 数値
特別資料の転載等 許可件数	123	93	—	55		参考 数値
郷土資料受入点数	2,670	2,048	2,000	1,920	96	B
窓口対応満足度 （大変よい＋よい）%＜中央館の み＞	86.9	87.9	87.1	87.2	100	A
大活字本の所蔵 冊数	7,011	7,033	7,000	6,898	99	B
新規購入冊数の 割合	3.3% [28,644 冊]	3.1% [26,339 冊]	3.1%	2.9% [24,323 冊]	94	B

* 有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数

* 実登録者は有効登録者のうち年度内に1度以上貸出のあった登録者数

2 管理運営費

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
図書館費 (各年度の決算額・千円)	387,580	401,469	354,271	
(うち施設管理経費)	261,280	269,411	267,702	
(うち資料費)	53,479	50,960	48,574	
(うち事業費)	72,821	81,098	37,995	

Ⅱ 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について

①貴重資料の活用、反町茂雄文庫展

事業概要	所蔵している貴重資料を定期的にエントランスで展示する。また、貴重資料について適切な収集・保存・公開をしていく。 美術センターを会場に「反町茂雄文庫展」を開催し、貴重な郷土資料群を一挙公開する。	
評価	A	評価理由
		・ エントランス展示での貴重資料の展示公開を充実させ、展示替えをFacebookにてお知らせした。 ・ 関連講座等も開催し、特色資料「反町茂雄文庫」を広くPRすることができた。

②郷土資料の充実

事業概要	・ 長岡市や新潟県に關係する歴史・人物・民俗などの郷土資料を収集し登録・保存活用する。 ・ 話題になった郷土資料を迅速に収集する。	
評価	B	評価理由
		・ 郷土資料の収集を行ったが、目標数値に届かなかった。今後の情報収集や発注・寄贈依頼を強化したい。 ・ 12月に開催した「反町茂雄文庫展」で当館所蔵の郷土資料を展示し、活用できた。

③古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

事業概要	・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行などを行う。 ・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。	
評価	A	評価理由
		古文書等の歴史資料の適切な収集・整理・保存・活用に努め、市民に向けて目録を公開し、長岡市史双書の刊行や市民からの閲覧・調査相談などで活用した。

④歴史公文書の収集・保存

事業概要	・市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成する。	
評価	A	評価理由
		庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。

⑤長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用

事業概要	・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。 ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新を行う。 ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。 ・刊行物の発行などをおして、県内外に情報発信を行う。	
評価	A	評価理由
		長岡市資料整理ボランティアと市民協働で資料整理を行い、国立国会図書館東日本大震災アーカイブひなぎくへの追加掲載等の関係機関との連携を行った。これにより、長岡市災害復興文庫の保存・活用及び災害対応の経験・教訓の全国発信につながった。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	貴重資料を展覧会などで有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、講座等の開催、刊行物の発行、長岡市資料整理ボランティアや関係機関・団体との連携などをおして、古文書等、歴史公文書、長岡市災害復興文庫の整理・保存・活用と情報発信を行うことができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 貴重資料の活用、反町茂雄文庫展

＜目的・概要＞	
1. 中央図書館のエントランスの展示スペースで貴重資料を展示するとともに、図書館報「図書館の窓から」でお知らせし、市民に所蔵資料を紹介する。 2. 長岡出身で古書業界をリードした反町茂雄の生誕 120 年・没後 30 年を記念し、反町が寄贈した貴重な郷土資料群「反町茂雄文庫」を美術センターを会場に一挙公開する。	
エントランス展示	反町茂雄文庫展
 五十嵐俊明 軸物展示	 会場風景
＜実績＞	
1. エントランス展示 〈令和2年度〉12回 〈令和3年度〉13回 松岡譲の生誕130年記念講演会にあわせた資料展示を行うなど、貴重資料を数多く市民に公開する機会となった。 2. 生誕120年・没後30年 反町茂雄文庫展～伝説の古典籍商がふるさと長岡に贈った郷土資料～ 会 期：令和3年12月4日（土）～12月19日（日） 14日間 内 容：戦国武将の書状等古文書類、戊辰戦争や長岡藩関連の歴史資料等、450点 入場者数：1,011人 成 果 等：反町茂雄文庫及び郷土資料等を広くPRできた。歴史上の人物の自筆等、本物の資料を気軽に見ることができ、図書館の資料収集の重要性を伝える機会となった。また、同展への理解を深めてもらうため、関連する講演会・座談会・映画会等を開催し、200人を超える参加者があった。	
＜課題・今後の方向性＞	
・貴重資料の収集・保存を適切に行いながら、公開する場を設けていきたい。 ・SNSを使った貴重資料の紹介や展覧会の動画公開など広報方法を工夫したい。	

② 郷土資料の充実

<目的・概要>

- ・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。
- ・行政からの収集のほか、新聞・雑誌、書店、SNS での情報など出版情報の収集を行い、幅広い資料の収集に努める。
- ・図書館未設置地域に関する郷土資料は中央図書館にて継続して収集する。

<実績>

全館（中央館と地域館すべて）の郷土資料蔵書数

	全館郷土資料蔵書数 (各年度3月31日現在の所蔵)	前年比 増加冊数
平成28年度	94,465 冊	3,322 冊
平成29年度	96,412 冊	1,947 冊
平成30年度	99,039 冊	2,627 冊
令和元年度	101,016 冊	1,977 冊
令和2年度	102,669 冊	1,653 冊
令和3年度	103,953 冊	1,284 冊

- ・新聞・雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し、迅速な発注・寄贈依頼、登録を行った。
- ・コロナの影響による特別休館中に郷土資料の目次情報を入力を行い検索の利便性向上を図った。
- ・各支所地域で出版された資料が図書館資料として寄贈されることが増えて、広報や寄贈依頼をつづけてきた成果となっている。
- ・「反町茂雄文庫展」において、『弘文荘待賈古書目』等、当館所蔵の郷土資料を展示活用できた。

<課題・今後の方向性>

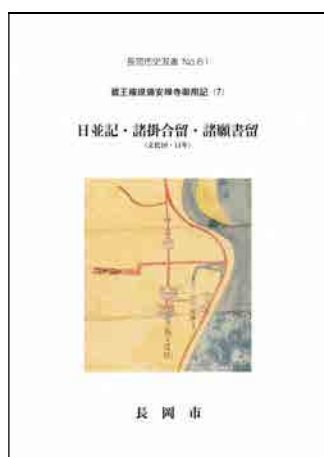
- ・郷土資料の収集においては、地域情報を新聞や出版案内を基に情報収集するとともに、県内の情報を含めて網羅的に収集する必要がある。
- ・郷土資料の展示方法を工夫したり、問い合わせの頻度が高いことについては、パスファインダーを作成するなど、利用者の調べものに役立つよう整備を行いたい。

③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

<目的・概要>

- 郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。
- 古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

長岡市史双書No.61



古文書解読講座「古文書のいろは」



<実績>

古文書等の歴史資料の保存・公開に努めた。古文書等の歴史資料を活用し、長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。

・各種講座の開催

講 座 名	回数	参加人数	会 場
古文書解読講座「古文書のいろは」	3回	87人	中央公民館
古文書解読講座「古文書に見る長岡のすがた」	各4回	120人	中央公民館
		59人	中央図書館
長岡市史双書を読む会	2回	68人	中央図書館

・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数 13件

(内訳：寄贈12件、寄託1件、移管0件、その他0件)

- 長岡市史双書No.61『蔵王権現領安禅寺御用記(7) 日並記・諸掛合留・諸願書留(文化10・11年)』 500部刊行
- 歴史資料取扱い相談受付数 5件 (うち訪問調査回数 3件)

<課題・今後の方向性>

- 古文書解読講座「古文書のいろは」「古文書に見る長岡のすがた」及び長岡市史双書を読む会は、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで開催し、例年とおりの参加者があった。コロナ禍における開催の在り方は今後も工夫・検討を続けていきたい。
- 長岡市史双書を読む会は、中央図書館主催の反町茂雄文庫展の関連行事として開催した。展示会の内容を補完するとともに、所蔵資料の活用を図ることができた。
- 古文書等の歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。また、古文書解読講座等の主催行事の機会をとらえて、歴史資料を後世に伝えていくための意識付けをはかる普及活動を行っていきたい。

④ 歴史公文書の収集・保存

<目的・概要>

- ・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。
- ・災害復興関連の歴史公文書を長岡市災害復興文庫として整理する。

歴史公文書の保存箱



歴史公文書の整理作業



<実績>

- ・歴史公文書の目録件数 1,096 件
内長岡市災害復興文庫の歴史公文書 72 件
- ・保管場所 旧半蔵金小学校・旧種芋原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など
- ・歴史公文書（情報公開対応）の問い合わせ件数 0件

<課題・今後の方向性>

- ・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討する。
- ・電子化された公文書の収集・保存方法を検討する。

⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用

<目的・概要>

- ・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。
- ・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新を行う。
- ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。
- ・機関誌やホームページなどをとおして、県内外に情報発信を行う。

長岡市資料整理ボランティア（古文書整理）



長岡市資料整理ボランティア（新聞資料整理）



<実績>

- ・長岡市資料整理ボランティアは、延べ12回活動、延べ86人の参加があった。
- ・長岡市資料整理ボランティア&十日町市古文書整理ボランティア交流会（3月、担当職員のみ参加）
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に「長岡市災害復興文庫に関する展示会」の関係資料（写真・チラシ・展示目録等）40点を新規コンテンツとして追加した。
- ・新潟歴史資料救済ネットワークは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため連携事業は中止。

<課題・今後の方向性>

- ・平成26年10月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのPRを継続するとともに、歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。
- ・今後も、国立国会図書館との連携などをとおして、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどにより一層の連携を図る必要がある。

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 図書館蔵書の充実

事業概要	- 市民の多様なニーズに対応する図書、雑誌などの収集、活用、保存に努める。 - 地域図書館の図書の充実を図る。	
評価	A	評価理由
		地域図書館の図書を計画的に収集し、ビジネス書をはじめとする資料の充実を図ることができたため。

② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実

事業概要	図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。	
評価	A	評価理由
		寄せられた照会に対応し、市民の調査支援を行った。

③ 図書館の環境整備

事業概要	安全・快適にご利用いただけるよう空調設備の入替等環境を整備する。	
評価	A	評価理由
		経費面の制約はあるが、優先順位をつけ整備を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	利用者のニーズに応じた資料の充実や施設改修により、利用者の利便性が向上した。

(3) 個別事業の実施結果について

① 図書館蔵書の充実

<目的・概要>

- ・ 栃尾地域交流拠点施設に移転予定の栃尾地域図書館について、図書資料の拡充を図り整備を進めた。
- ・ ビジネス支援に関する図書に力を入れ継続して収集した。

<実績>

コーナーの充実



栃尾地域図書館の新刊コーナー



□□中央図書館ビジネス支援コーナー

- ・ 栃尾地域図書館は令和4年の新館オープンに向けて、通常予算の2倍の冊数の2,400冊（予定）の図書を購入し、資料の全体の入替を図った。
- ・ 中央図書館は引き続き利用の多いビジネス支援コーナーを充実を図り継続して資料の購入を続けている。

<課題・今後の方針>

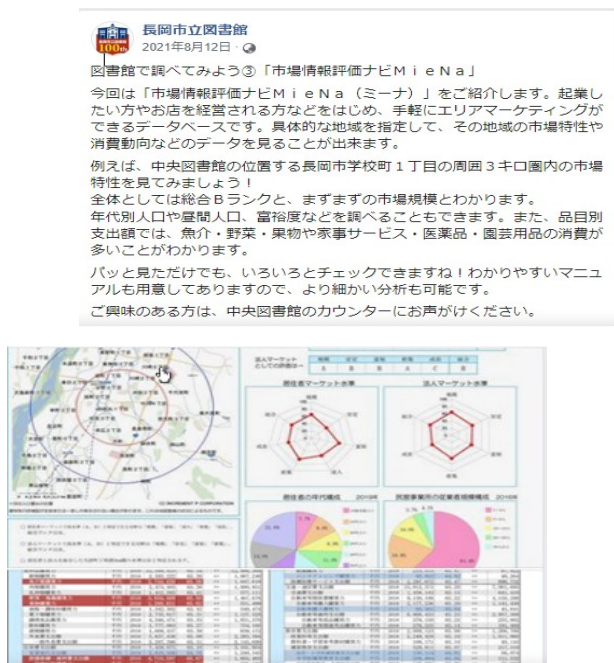
- ・ 栃尾地域図書館は新館がオープンを控え注目されていることもあるため、今後も資料面について充実を図り適切な資料管理をしていきたい。
- ・ ビジネスの分野は、求められる情報の移り変わりのスピードが速いため、今後も資料の新鮮さを保ちながら提供できるようにしたい。

② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実

<目的・概要>

図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。

「図書館で調べてみよう」掲載



長岡市立図書館
2021年8月12日

図書館で調べてみよう③「市場情報評価ナビMieNa」

今回は「市場情報評価ナビMieNa（ミーナ）」をご紹介します。起業したい方やお店を営まれる方をはじめ、手軽にエリアマーケティングができるデータベースです。具体的な地域を指定して、その地域の市場特性や消費動向などのデータを見ることが出来ます。

例えば、中央図書館の位置する長岡市学校町1丁目の周囲3キロ圏内の市場特性を見てみましょう！

全体としては総合Bランクと、まずまずの市場規模とわかります。年代別人口や昼間人口、富裕度などを調べることもできます。また、品目別支出額では、魚介・野菜・果物や家事サービス・医薬品・園芸用品の消費が多いことがわかります。

パッと見ただけでも、いろいろとチェックできますね！わかりやすいマニュアルも用意してありますので、より細かい分析も可能です。

ご興味のある方は、中央図書館のカウンターにお声がけください。

レファレンス協同データベースの活用



全国の図書館約 880 館が加入、レファレンス事例約 27 万件が登録されている。事例の調査を参考にしている。

<実績>

・今年度は 51 件のレファレンスがあった。調査して回答できない場合は、文書資料室に調査協力を依頼し対応した。（令和 2 年度 60 件）

例）鋸山と栴形山の間にある「コハ清水」と呼ばれる清水の名前の由来を知りたい。

戊辰戦争後、太平洋戦争後、復興する街（長岡）の様子がわかる写真や地図・資料が見たい。

- ・図書館フェイスブックで「図書館で調べてみよう」と題してテーマ紹介を行った。
- ・レファレンス研修（実習）を行った（中央館 48 名参加）

<課題・今後の方針>

- ・レファレンスについては、図書館内で協力して調査している。必要に応じて文書資料室や新潟県立図書館など関係機関に照会、協力依頼を行う。また国立国会図書館のレファレンス協同データベースやリサーチナビ等各種レファレンスツールを参考にしている。さまざまな照会に対応できるよう職員のスキルを向上させる必要がある。
- ・図書館のレファレンスについて、今後も PR を継続したい。

③ 図書館の環境整備

<目的・概要>

図書館を安全・快適にご利用いただけるよう施設の改修等を行う。

<実績>

日常の点検や利用者のご意見等から必要なものを選び、優先順位をつけ整備・改修を行った。

- 中央図書館
 - 屋外水銀灯等照明器具の改修
 - 空調設備の部品交換
 - 樹木剪定
 - トイレ改修工事の設計委託

○地域館

- ・南地域図書館 アーケード天井修繕
- ・西地域図書館
 - 雨漏り修繕
 - 樹木伐採



中央図書館 屋外水銀灯LED化



西地域図書館 雨漏り修繕

<課題・今後の方針>

- ・設備の老朽化により、改修しなければならない箇所が多くなっている。
- ・限られた予算の中で、少しずつ計画的に実施していく。
- ・利用者から要望の多いトイレ改修について進めていきたい。

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 広報について

事業概要	長岡市や図書館ホームページ、広報誌、SNS を利用し積極的な広報を行う。	
評価	B	評価理由
		図書館 HP、Facebook への投稿回数は昨年を約 80～135 回上回る広報を行うことができた。報道リリースを行ったが、記事掲載件数は昨年度より減少した。

② 各種機関と連携した事業の実施

事業概要	他の施設と連携して事業を行うことで PR の相乗効果を狙う。	
評価	A	評価理由
		他の機関とのコラボ展示を行うことで、講演会チラシに図書館の関連図書展示コーナーの情報掲載等、互いの事業を PR することができ、利用促進を図った。また、これまでにないテーマ設定が利用者にも好評だった。今後も連携を継続することで、新たな利用者層の獲得を図りたい。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

事業概要	・特色資料に関連した、または地域の団体・学校などと連携した事業を継続し実施する。 ・調べる学習コンクールなど図書館資料を活用した事業を展開する。	
評価	A	評価理由
		・各地域図書館が持つ特色資料の関連事業の他、近隣の学校や団体と連携した事業を計画し、工夫して実施した。 ・学校を通じ働きかけ、「図書館を使った調べる学習コンクール」作品作りの事前説明会を行い、参加校、作品数を増やすことができた。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
B	コロナ禍で、事業や広報について工夫したが、図書館の利用拡大（登録率、貸出冊数）につなげることはできなかった。

(3) 個別事業の実施結果について

① 広報について

<目的・概要>

- (1) 図書館ホームページ、Facebook などでも広く広報を行い、来館者の増加を図る。
- (2) テレビ・ラジオ等への出演や新聞・雑誌への寄稿により図書館のPR 活動を行う。

図書館ホームページ	フェイスブックでの情報発信
 米百俵号ミニデザイン投票 (R3 年 7月)	

<実績>

- (1) 図書館ホームページ、長岡市ホームページ、Facebook などでも広報を行った。
 - ① 図書館ホームページ更新回数 357 回
 新しい自動車文庫「米百俵号ミニ」の WEB 投票を行い、米百俵号の認知度の向上を図るとともに、閲覧者の興味を引く参加型情報発信の機会となった。
 - ② Facebook 更新回数 327 回 (臨時休館中も毎日情報発信を行った)
 リーチ数最大：「夜の図書館を楽しむ会 ～中央図書館 24 時～」イベントページ 1273 件
- (2) 報道リリースを行い、取材や周知の依頼を行う。また、テレビ・ラジオ等に出演しての図書館 PR、新聞等に書評記事等を寄稿し広報活動を広げる。
 - ① 新聞記事掲載件数 14 件
 - ③ マスコミへの出演・寄稿
 - ・「日本の古本屋」メルマガ(2 月 25 日号)「反町茂雄文庫展を終わって」
 - ・FM にいがた「遊びのススメ」(11 月 26 日放送)「夜の図書館を楽しむ会」紹介
 - ・『図書館雑誌』令和 3 年 11 月号「うちの図書館お宝紹介 反町茂雄文庫」記事掲載

<課題・今後の方針>

- ・ホームページやフェイスブックで情報発信回数を増やし、内容を工夫することで、来館者の増加につなげる。
- ・新聞・ラジオ等マスコミに露出することで、図書館の認知度向上を図る。

② 各種機関と連携した事業の実施

<目的・概要>

- (1) 他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。
- (2) 図書館外で、図書館の利用促進を目的とした事業やPR活動を行う。

連携展示「台湾 台南市」



読書バリアフリー展示



点字絵本や貸出用布絵本、障害に関する図書や福祉関係チラシを展示。拡大読書器の紹介とリーディングトラッカーの作成コーナー設置

<実績>

1) 連携展示

- ・近代美術館 久保田成子展関連図書展示 3月～5月
 - ・読書バリアフリー 1月
 - ・ひきこもり支援関連図書展示 8月
 - ・認知症関連図書展示 9月
 - ・ウィルながおか紹介展示 10月
 - ・「台南市」関連図書展示 11月
- など13回実施

(2) 図書館外での活動

- ・まちゼミ 各店舗に図書リストや図書館データベース案内を配布 8月 2月
- ・米百俵号 特別巡回

<課題・今後の方針>

・他の機関と連携することで、講演会チラシに図書館の関連図書展示コーナーの情報掲載等、互いの事業をPRすることができた。また、新しいテーマ設定をおこなうことで利用者にも好評だった。今後も連携を継続することで、新たな利用者層の獲得を図りたい。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

<目的・概要>

特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業を継続し実施するほか、図書館資料を活用した事業を展開する。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

○特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業

第7回寺泊地域探訪 秋のシーサイドバードウォッチング



双眼鏡の使用方法や設定方法を学んでから、バードウォッチングへ出発した。

教えて長農生！苔玉の作り方（展示）



苔玉に関する資料と一緒に設置したため、展示とあわせて資料をご覧になる方が多い。

<実績>

【第7回寺泊地域探訪 秋のシーサイドバードウォッチング】

寺泊地域図書館では第7回目を迎えた今回の「寺泊地域探訪」では寺泊地域の海沿いに生息する鳥にスポットを当て、バードウォッチングを実施した。長岡市立科学博物館より講師を招き、長岡では寺泊地域でしか見られない「コシアカツバメ」や、日本固有種の「セグロセキレイ」など様々な鳥を観察した。講師の方からは鳥の生態や識別点など都度解説を受け、ご厚意で鳥の「触れる標本」までご用意を頂いた。貴重な体験に子どもから大人まで夢中になり、良い思い出に繋がった。「図書館イベントには初めて参加した」という地元の方もおり、本イベントを通して新たな図書館利用を増やすとともに、寺泊地域の魅力を再発見して頂いた。

【教えて長農生！苔玉の作り方（展示）】

南地域図書館では、長岡農業高校の生徒さんに苔玉の作り方や管理方法の解説展示を書いたものを掲示して、実際の苔玉を借り展示した。地域の学校の活動を知っていただく機会になり、日頃より園芸への関心が高いご利用者様が多いため、冬季の園芸を楽しんでいただき、関連資料の貸出につながりとなった。

<課題・今後の方針>

今後もコロナ感染対策を行いながら状況に応じて実施時期をずらし、できる限り地域や学校と連携を取り、図書館資料を活用いただける事業を展開していく。また、今回は感染防止のため、展示のみの形をとったが、農業高校の生徒さんからの企画や今回ご要望があった出張園芸教室等、継続的に開催を検討する。

○図書館資料を活用した事業（図書館を使った調べる学習コンクール in 長岡の実施）

事前説明会	審査会の様子
＜実績＞  感染症対策のため、低学年を 14:00～、高学年を 15:30～に分け、参加人数をしばり説明会を行った。	 中央図書館講座室を会場に審査会を行った。力作揃いのため、部門によっては審査員の意見が分かれることもあった。
＜実績＞ 今年度は市内 30 校の児童から 113 作品の応募があった（昨年度は 24 校 109 作品）。応募者 111 人のうち 27 人が昨年に引き続き応募しており、初参加校も 5 校ありました。これまでの積み重ねで調べる学習コンクールが市内小学校に浸透してきたと感じている。今年は各図書館を会場に行う事前説明会を低学年と高学年に分け、1 回の参加人数をしばって行った。各図書館の開催日をずらしたことで、いつも利用する図書館ではない事前説明会に参加した児童もあり、日程に合わせて参加することができたのではないかと思います。また、図書館のHPから図書館をつかった調べる学習コンクールへのアクセスがわかりやすくなったことで、HPに掲載されている『作成キット』などをより活用しやすくなったと思われる。 応募者数は昨年よりやや増であったが、全国コンクールへの出品数が全体の 2% から 1.5% に変更されたため、今年度は中学年から 1 作品、高学年から 1 作品が推薦となった。	
＜課題・今後の方針＞ 今後も作品作りのきっかけ作りになるよう事前説明会を開催し、図書館資料を活用したコンクール作品を出品してもらうよう働き掛けたい。	

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

事業概要	平成29年度に策定した「第2次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。	
評価	A	評価理由
		- 子どもたちと本をつなぐ重要な役割を担う読み聞かせボランティアや学校関係者、親御さん等の活動に役立つ講座を実施し、コロナ下でも、地域全体で子ども読書活動を推進していこうとする気運や環境作りを高めることができた。 - 年代別おすすめ本リスト「よもよもブックス」(長岡の子ども 100冊)の選定を行った。

② 子ども向け図書館サービスの充実

事業概要	ゴールデンウィークや夏休み等を利用して、子どもたちが読書を始めるきっかけとなり、図書館や本に親しむことができる行事を行う。	
評価	A	評価理由
		コロナ下でも、家での読書を主とする「サマーチャレンジ」で広報や記念品等に工夫をして、参加者数を約2倍に増やすことができた。

③ 学校等への図書館サービスの実施

事業概要	図書館から遠い地域にある小学校への米百俵号の巡回や、学級文庫として活用してもらう学校配本、授業用の本の貸出など、学校図書館の蔵書を補う。	
評価	A	評価理由
		小学校だけでなく、中学校と児童館に対象を拡大し、より大勢の子どもたちに本が身近にある環境を提供できた。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	コロナ下においても、子ども読書推進活動の歩みを止めないよう、感染予防対策を十分に検討し、内容に工夫をこらして、できる範囲で各種イベント等の実施に取り組むことができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

＜目的・概要＞	
平成29年度に策定した「第2次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。多くの事業を展開する中で、今年度は次の事業を取り上げ評価する。 1. 初心者向け読み聞かせ講座・読み聞かせボランティア養成講座の実施 2. 「長岡の子ども100冊」選定事業	
初心者向け読み聞かせ講座	長岡の子ども100冊選定事業
	
	選定委員会
＜実績＞	
1. ■初心者向け読み聞かせ講座 実施日：令和3年11月6日（土）10：00～11：30 内 容：図書館や小学校などで、広く子どもたちの読書推進や環境作りに役立つよう、基本的な手法や選書のコツ等を指導した。 講 師：会計年度任用職員（当館司書）高橋啓美 成果等：長岡市のSNSを通じて広報を行ったことで、普段図書館を利用しない市民を含め定員を大きく超える申込があり、初心者向け講座のニーズを実感した。 ■読み聞かせボランティア養成講座「絵本と子どもの発達」 実施日：令和4年3月13日（日）13：30～15：00 内 容：乳幼児の言葉の育ち（発達）を踏まえて、絵本や物語が果たす役割等について学ぶ。 講 師：白神（しらが）敬介氏（上越教育大学准教授） ※オンライン講義 2. 「長岡の子ども100冊」選定事業 乳幼児から中学生まで年代別におすすめ本リストを作成する。関係課ワーキング、市民アンケート、3回の選定委員会を開催し検討、3月に決定。名称は「よもよもブックス」（長岡の子ども100冊）に決定。令和4年度各図書館にコーナー設置、リスト配布予定。	
＜課題・今後の方針＞	
・昨年以降、コロナの影響でボランティアによるおはなし会の長期中止期間があり、ボランティアや、子どもたちの読書機会減少につながっている。読書活動に欠かせない読み聞かせ活動の灯を消さないためにも、各種読み聞かせ講座等の実施を継続し、家庭・学校・保育園等での読み聞かせの推進や、図書館読み聞かせボランティアのモチベーションや技術の向上を図っていく必要がある。	

② 子ども向け図書館サービスの充実

<目的・概要>

1. ゴールデンウィークや夏休みを利用し、全館共通行事を行う。

■子ども一日図書館員

こどもの読書週間にあわせ、仕事を体験しながら図書館に親しんでもらう。

■としょかんサマーチャレンジ

熱中！感動！夢づくり教育事業の一つとして、乳幼児から小学生を対象に大規模に実施。

夏休みに合わせ、期間中に本を 30 冊読むことを目的とする「めざせ 30 冊コース」と、図書館に親しむことを目的とする「チャレンジコース」の2種を用意。それぞれの達成者には賞状や記念品をプレゼントする。読む本は、市内図書館ほか学校図書館や家庭の本でも可で、家庭での読書が主となるため、コロナ下でのステイホームには有効。

2. コロナ下での児童サービスの維持

子どもたちの読書活動の停滞を避けるために、コロナ下でも実施可能な児童サービスを検討し実施に努める。

子ども一日図書館員



本のコーティングに挑戦

としょかんサマーチャレンジ



サマーチャレンジ宣伝コーナー

<実績>

■子ども一日図書館員

「こどもの読書週間」に合わせ 5/8（土）5/9（日）に、定員を少なくするなどコロナ対策をとって実施。館内見学、貸出返却・本のコーティング体験など。参加人数：9人（全館）

■としょかんサマーチャレンジ

期間：夏休み（7/10～8/31）

「めざせ 30 冊コース」30 冊達成：580 人、20 冊達成：507 人、10 冊達成：456 人

「チャレンジコース」792 人

市内小学校の新1年生全員にチラシ配布を行ったところ、参加人数が「チャレンジコース」が昨年度の約 1.6 倍、「めざせ 30 冊コース」が約 2 倍に拡大した。夏休みの恒例行事として定着し、

今年度も子どもたちが熱心に取り組む姿が見られ、読書や課題を解決した達成感を得ることができた。

■コロナ下での児童サービスの維持

【おはなし会】

コロナ対策をとり毎週木曜日の「ちびっこタイム」は職員のみで休まず継続。9月後半から、ボランティアによるおはなし会を再開。

【わらべうた動画発信】

5月の休館中、家庭向けに司書によるわらべうたの動画を SNS で発信。

【家庭での読み聞かせおすすめ本コーナー設置】

6月から実施。「たべもの」「どうぶつ」「かぞく」「ことばあそび」など週ごとにテーマを入替。

【図書館からの挑戦状】

「秋の読書週間」にあわせ 10/26～11/7 に実施。参加者数：41人（内、全問正解：15人）

<課題・今後の方針>

子どもたちと本をつなぐために必要不可欠な児童行事が、コロナ下で減少しないよう、工夫を凝らして継続していくことが必要。

③ 学校等への図書館サービスの実施

<目的・概要>

- ・読書旬間等に小学校を訪問し、年代にあったおすすめの本を紹介するブックトークを実施。
- ・図書館から遠い地域の小学校に米百俵号で巡回し、本の貸出や読み聞かせを実施。
- ・希望する小・中学校・児童館に学級文庫として使える本を貸出・配送。
- ・「米百俵号ブックカーニバル」では、夏休み期間に児童館・児童クラブを訪問し本を貸出。
- ・「授業用図書セット貸出」小中学校で授業に使用する本を 40 冊まで 2 週間貸出。



多くの子どもたちが放課後や夏休みを過ごす児童館へ本を配達。(児童館への貸出)



お化け屋敷に変身した米百俵号で本を選ぶ子どもたち。(米百俵号ブックカーニバル)

<実績>

【ブックトーク】

小学校 公演数 28回 参加者数 1,161人

【米百俵号による巡回】

小学校 訪問数 27校 回数 年10回ずつ

【学校配本】対象を中学校・児童館に拡充

小学校 実施校数 45校 配送箱数 1,188箱(1箱35冊)

中学校 実施校数 4校 配送箱数 12箱

児童館 実施館数 28館 配送箱数 73箱

【米百俵号ブックカーニバル】

- ・夏休み中のイベントとして児童館や児童クラブから毎年好評である。今年はお化け屋敷に変身。

(今年度実績) 8回実施 参加者数 306人 貸出冊数 464冊

(昨年度実績) 9回実施 参加者数 147人 貸出冊数 595冊

- ・【授業用図書セット貸出】122件(全館分)

<課題・今後の方針>

- ・米百俵号での訪問や学校でのブックトーク・おはなし会の際には、コロナ対策をしっかりと行いながら今後も事業を継続したい。

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について

①利用者アンケートの実施

事業概要	毎年夏期にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握することにより、運営に役立てる。	
評価	A	評価理由
		アンケートにより利用者のニーズを把握し、リクエスト図書の採用基準の周知や資料の状態確認の徹底など業務に活かすことができた。

②友の会事業

事業概要	利用者が集い、読み聞かせや書架整理などの様々な活動を通じて図書館を支援いただく。	
評価	A	評価理由
		恒例行事は引続き自粛となったものの、昨年非常に好評だった「夜の図書館」を開催し、事務局も適切な支援を行った。

③ご意見ポストの設置

事業概要	寄せられた意見を毎月集約し、図書館運営に反映させる。	
評価	A	評価理由
		評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

(3) 個別事業の実施結果について

① 利用者アンケートの実施

＜目的・概要＞	
例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握する。	
【中央図書館】 ＜利用者アンケート＞ ○ 館内や本棚の表示について ○ 本の種類の充実度について ○ 希望する本の分野について ○ 希望するサービスについて など	【地域図書館】 ＜利用者満足度アンケート＞ ○ スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応など（3項目） ○ 施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報（4項目） ○ 図書館サービスについて 資料の充実、展示物などについて（5項目）
＜実績＞	
○ 中央図書館のアンケート（窓口：8月24日～31日、HP：8月24日～9月30日） 窓口では、貸出しカウンターで配布。窓口対応については、「大変よい」＋「よい」が87.2%と概ね好評をいただいた。 （今年度実績） 配布数 823 回収数 728 回収率 88.46% Web 83件 （昨年度実績） 配布数 819 回収数 677 回収率 82.66% Web 76件 ○ アンケート結果への対応 ・窓口対応については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。 ・返却本の状態や汚破損についての一層の確認及び利用マナーの周知を行う。	
○ 地域図書館のアンケート（7月24日～8月14日） （今年度実績） 配布・回収数 812（全て回収） （昨年度実績） 配布・回収数 901（全て回収） 今年度もコロナ禍のため、来館を控える方もおられるだろうと期間を長くし、ご協力をいただいた。今回もスタッフの対応については良い評価をいただき、開催したイベント名をあげての感想もいただけた。	
＜課題・今後の方針＞	
【中央図書館】 HPや図書館システム（OPAC）が見づらい・使いにくい旨の意見が多くあったため、改善に向けて取り組んでいる。 【地域図書館】 毎年のことだが要望として資料の充実に関するものが多く寄せられた。また、互尊文庫や栃尾地域図書館では新しい施設への期待の声が寄せられ、除菌機が入ったことで安心して利用できるとの声があった。	

② 友の会事業

<目的・概要>

図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。

夜の図書館を楽しむ会 ～中央図書館24時～

11月27日（土）19時～24時

来館者 300名

友の会会員参加者 8名

【参考】昨年度：来館者 132名

友の会会員参加者 4名



昨年の初開催に引き続き、1階閲覧室を24時まで開放したもの。チェロ演奏と絵本の読み聞かせ会やブラックパネルシアターによるおはなし会、書庫見学をはじめ、多くのイベントを実施。昨年よりも多くの会員が参加し、各自がイベントや会場整理などを担当、積極的に運営に携わった。

来館者は昨年の倍以上となり、「久しぶりに図書館に足を運ぶきっかけとなった」「温かい気持ちになれた」「定例イベントとして定着してほしい」など、今回も非常に好評だった。

<実績>

コロナウイルスの影響により、昨年に引き続いて、定例行事の「視察研修」や「なりふ古本市」は中止となったものの、「夜の図書館を楽しむ会」を開催することができた。昨年の経験を踏まえ、広報・運営の改善を行い、全体としてスムーズに開催することができた。今後も、図書館活動の応援に繋がる取組として開催を継続していきたい。

（今年度実績）

総会、夜の図書館を楽しむ会～中央図書館24時～、書架整理、布絵本の会、つぐみの会など

個人会員 31名 賛助会員 8名

（昨年度実績）

オンライン講演会、夜の図書館「中央図書館24時」、書架整理、布絵本の会、つぐみの会など

個人会員 23名 賛助会員 9名

<課題・今後の方針>

今年は「夜の図書館」で友の会に興味を持ち、新規入会いただいた方がいらした。今後も、会員が主体となった企画・運営の取組みへの支援を行い、より魅力的な図書館サービス・イベントを行うことで、幅広い世代の新規会員の加入促進に繋げたい。

③ ご意見ポスの設置

＜目的・概要＞	
・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。 ・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。	
＜主な要望＞	
（中央図書館） ・1階トイレのドアや個室を改修してほしい。 ・延滞者への督促をもっと強くしてほしい。 ・館内での利用マナー周知に努めてほしい。 ・リクエストを断った理由を教してほしい。 ・各新聞の数を増やしてほしい。 など	（地域図書館） ・1階男性用トイレにウォシュレットを設置してほしい。 ・駐車スペースと自転車置き場の間にガードを作してほしい。 ・新潟日報のカウンター取り置きをいつまでやっているのか。
＜実績＞	
（中央図書館） ・毎月意見を集約し、可能な限り対応した。 ・窓口対応については、おおむね好評価をいただいている。 ・1階トイレについては、令和4年度にドアをはじめとしたトイレ全体の改修を予定している。 ・悪質な延滞者への対応として、電話・はがき及び訪問督促を行った。 ・リクエスト（購入希望）を断る理由について、よくあるケースや基準等をHPのリクエスト受付ページにわかりやすく掲載した。	
（地域図書館） ・意見に対し可能な限り対応した。 ・リモコンが壊れていたため使えなかったウォシュレットを交換し、利用可能にした。 その後「多目的トイレにも設置してほしい」とご意見ポストに投函があり、諸般の事情を鑑みつつ検討していくと回答した。 ・駐車スペースと自転車置き場の間にガードを設置。 ・切り取りが収まったので当日分の開架を再開し、バックナンバーについては盗難防止のため引き続きカウンター内の保管を継続している。	
＜課題・今後の方針＞	
普段職員が気づきにくいことについての意見が多かったため、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。	

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 外部研修・遠隔研修

事業概要	県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。	
評価	A	評価理由
		・研修に参加し、研修の概要を報告し、情報の共有を図る。その情報を元に業務の改善を行った。 ・昨年度に比べ参加人数が減少したものの、研修の成果を有効に活用している。

② 職場内研修

事業概要	職員全体での研修会を行い、職員全体の資質の向上を図る。	
評価	A	評価理由
		・中央図書館では係内研修を行うほか、外部講師を招いて係内研修を行った。 ・地域図書館では県内スタッフが集まる研修は日程を分け、参加人数をおさえて地元の講師をお願いし、本社関係者が講師の場合はオンラインやeラーニングを活用した研修を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 外部研修・遠隔研修

<目的・概要>	
- 新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で取得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。 - 地域図書館では、県立図書館主催の外部研修に今年度も積極的に参加する。	
<参加研修>	
①新潟県公共図書館新任職員研修 6月3日、4日（中央館3名、地域館4名参加） ②全国公共図書館協議会総会・事例報告 6月25日（中央館1名参加） ③関東地区公共図書館協議会総会及び研究発表大会 7月8,9日（中央館6名参加） ④著作権セミナー 8月27日（中央館3名、地域館2名参加） ⑤子ども読書レベルアップ研修 9月下旬～10月15日（中央館4名、地域館9名参加） ⑥国際子ども図書館児童文学連続講座 12月（中央館2名部分受講） ⑦新潟県公共図書館中堅職員研修会 11月4日（中央館2名、地域館5名） ⑧全国公共図書館児童・青少年部門研究集会 11月（中央館10名参加） ⑨図書館総合展 11月（中央館3名参加） ⑩全国図書館大会 11～12月（中央館19名参加） ⑪関東甲信越静地区図書館地区別研修 11-12月（中央館2名参加、部分受講中央9名地域館2名） ⑫国立国会図書館レファレンス研修「人文情報の調べ方」 2月17日（中央館2名） ⑬新潟県公共図書館総合部門研究集会 2月24日（中央館2名、地域館2名参加） ＊すべてオンライン開催	
<実績>	
（今年度実績） 中央図書館 59名 参加 地域図書館 24名 参加 （昨年度実績） 中央図書館 43名 参加 地域図書館 8名 参加 ・中央図書館では、オンライン研修へ積極的に参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。部門会議等で情報共有し、今後の業務に活かしたい。 ・地域図書館では勤務人数の関係で参加することが難しい研修もあったが、参加した研修について館内だけでなく地域館全体として情報を共有した。	
<課題・今後の方針>	
○中央図書館 外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善に取り組み、長岡市の事業としてどう反映させるか検討していく必要がある。	
○地域図書館 県立図書館主催の外部研修には今後も継続して参加していきたい。勤務人数の都合上、全館平等に参加することが難しいが、webカメラを購入し、各館でもオンライン研修に参加しやすい環境を整え、希望する研修が受講できる回数を増やしていきたい。	

② 職場内研修

<目的・概要>

- ・係研修を行ったり、外部研修に派遣された職員が講師となり研修報告会を行ったりすることで、職員の資質や専門性向上・情報共有を図る。
- ・地域図書館ではスタッフの能力育成のため、図書館員としての知識やスキルを向上させる地域館合同研修を行っている。

<研修内容>

○中央図書館

- ①係内研修（地域連携と課題解決支援「常識のカバーをはずそう」） 9月30日 31名
- ②新潟県立図書館訪問研修（郷土資料レファレンス） 8月30日参加15名
- ③歴史資料の取扱いについて 1月31日 中央館 32名
- ④職員提案型研修（ブックトーク） 2月16日 中央館 16名参加（講師：東京子ども図書館理事）
- ⑤2月28日レファレンス研修（初心者）講義 32名 実習8名参加

○地域図書館

- ①長岡全体研修 6月30日、9月30日 参加人数 43名
普通救命講習Ⅰ（AED講習会）、認知症サポーター養成講座
- ②新潟・燕・長岡全体研修 11月29日、30日 参加人数 34名
チームビルディング研修 講師：たかの社会保険労務士事務所 高野 真規氏
ビジネスマナー研修 ライブラリー・アカデミー 大松澤 和美氏

※個人情報保護研修 9月～12月（各館ごとに実施）

<中央図書館、他市TRC研修への参加>

- ① 新潟県立図書館訪問研修 （7名参加） 8月30日
- ② TRCステップアップ研修（2名参加） 1月18日（2名参加） 2月16日
- ③ TRCレベルアップ研修（8名参加） 1月21日
- ④ 歴史資料の取扱いについて（38名参加）1月30日
- ⑤ TRC新人研修（2名参加） 3月4日、14日
- ⑥ TRC責任者研修（1名参加） 3月4日～22日

<実績>

（今年度実績）	中央図書館	5回実施	地域図書館	8回実施
（昨年度実績）	中央図書館	4回実施	地域図書館	3回実施

中央図書館では係研修を行うほか、新潟県立図書館に依頼して研修を行った。職員提案型研修により東京子ども図書館理事に講師を依頼してブックトーク実技研修を行った。

地域図書館では2年に1回全員が受講する普通救命講習を行うことができた。あわせて行った認知症サポーター養成講座では日常業務の中で困ったことにアドバイスをいただき、その後の対応に役立っている。初めて行ったチームビルディング研修では、コミュニケーションの大切さを実感し、久しぶりに行った対面研修で得るものが多く、実践につながる研修となった。

＜課題・今後の方針＞

中央図書館では、図書館事業をより充実させるため、サービス向上につながる研修を継続して行いたい。動画研修を取り入れ、より多くの職員のスキルアップを図りたい。

地域図書館では、動画コンテンツを活用した研修を取り入れており、コロナ禍でもオンラインで研修に参加する機会をふやし、スタッフのスキルアップにつながる研修を継続して行いたい。